
HALFWAY

風舞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

HALFWAY

【Nコード】

N6897H

【作者名】

風舞

【あらすじ】

天空界には、天使がいる。戦う黒天使、癒す白天使…そして、見守る大天使。今まではその三つで成り立っていた。しかし……ちよっと間違えて、順番がおかしくなりました。プロローグからお読みください。

第一話 悲しみの城（前書き）

大切な人達を失った次の日って、どんな感じなんだろう…。

第一話 悲しみの城

「…かなり、被害は大きかったな…。」

「……………。はい」

静かな部屋。

押し殺された涙の音。

一昨日の突然の来襲…。

「…ねえ、オーデイン様あ…………」

「なんだい、千佐…」

生き残ったのは、四人。一人目、千佐。紅い髪のボブの少女。黒天使だ。

「…もう、みんな戻ってこないの…?」

少し前まで、賑わっていたこの城。しかし、今は……

「…。」

返す言葉が見つからなくて、また沈黙が続いた。

「千佐、目をつぶりなさい」

二人目、ベル。ピンクの長髪で、黒天使。

「…え…？」

「落ち着くの。今は、ただ…」

「分かった…」

突然、扉が開き、一人の青年が入って来た。三人目の生き残り、白夜。黒髪の長髪で、白天使。

「オーデイン様、報告します。……死者は、黒天使が四万六千二十九人、残ったのは二人。白天使が五万三千二人、残ったのは……私だけです。……その後、クラリスは行方をくらましましたが……おそらく傷を癒しているのかと思います。……報告は、以上です。」

「そう、か……有難う、白夜。すまない……皆を……守れなかった……。」

「いえ、オーデイン様が無事だっただけでも……」

「そうですよ……それに、守ってくれたじゃないですか……私達を。」

「……。皆を束ねると……いつも、取りこぼしてしまう……。前も……今も。」

「……………」

四人の顔から悲しみの色は消えなかった。

「しかし…何故クラリスは、あんな事を…？」

同じ天使。その色は違うものの、戦う理由は見つからなかった。

——コロシテヤル——

冷たい言葉。冷たい——あの瞳。

「……どうして」

何よりも冷たかったのは、彼女の心だった。

第一話 悲しみの城（後書き）

生き残った天使達。

オーデイン、ベル、千佐、白夜。

次、それぞれの物語。

第二話

白夜（前書き）

白夜の心。

第二話 白夜

……メイ……。

もう、二度と会えない……？

嘘だ。

だって、少し前まで、俺達は、一緒に笑っていたのに。

「……俺、だけ……」

白天使が俺だけしか残らなかったのは、運が良かったんじゃない。

メイがいたから。

黒天使のメイが……俺を守ってくれたから。

俺の、せいなんだ。

「じっ……め、ん……」

熱い水が溢れ出す。

ごめんね。

ごめん、メイ。

トントン

「…！はい…？」

「…白夜…？」

ドアから不安そうにこちらを見つめるのは、千佐だった。

「ああ…千佐。どうしたの？」

「…。びやっ君…。」

ぎゅっと、千佐が抱きしめてくる。

「…………千佐…。」

「…メイ、びやっ君のこと大好きだった。びやっ君も、メイのこと大好きだった。」

「…。うん。」

「泣いて。もっと。メイのぶんまで、泣いて。…足りない分は、僕が泣くから…。」

「千佐……………。」

泣いていいよ。大切な人を想いながら。

心の中で、生きていることを確かめながら。

大事に、大事に。

「…つく……。ひうつ……。」

「…ぐすつ。……すんっ」

涙の数だけの記憶。

ひとつひとつかみしめて。

メイと出会ったのは、一年半前。

俺が治療した黒天使だった。

「…ありがとう、白夜君」

「いや、いいよ。気にしないで。…にしても、空が飛べるのに木から落ちるなんて……」

「あ、うん……ちょっと、見とれちゃってて」

「何に？」

「……………白夜君に…」

「……………は？」

「あなたの羽、すごく綺麗よ？うつすら蒼色が交じって…」

「え?!」

そんなことを言われたのは初めてだった。

むしろ、他の天使からは差別的な目で見られていたし。

初めて自分が好かれたような気がして、嬉しかった。

「あ、ありがとう。」

「…？どうして？…まあいいけど、ねえ、遊びに行かない？私、あなたと話したかったの。いい…かな？」

「ああ、いいよ。行こう。」

それから、二人は仲良くなった。

最初は仲良しなだけだったけど、いつの間にか愛してた。

ずっと、あの幸せな時が続くと思ってた。

けど……………

白夜っ、逃げてええっつ！！！！！！！

それが最後の君の声。

「僕っ…やっぱり許せないのっ…」

「俺、も…」

皆を、大切な人を殺したあいつを…

ユルセナイ。

「千佐」

「…なあに？」

「ありがとう。」

「……？なんで？」

「いいよ、気にしないで……」

千佐のおかげでまたこんな風に笑えた。

……だけど、千佐はまだ笑えていない。

第二話 白夜（後書き）

自分のせいだつて、責めちゃいけない。そんなこと、大切な人は望んでいないから。

プロローグ（前書き）

始まりの戦争。

プロローグ

『みーつけた…』

「ひっ……！」

燃え上がる炎。逃げ道はない。

「た、助けてくれ……！」

『助ける……？アタシが？』

フツと笑みを浮かべて、また真顔に戻る。

『よく言えたものね……。皆……アタシに……殺されるのよ』

「や……や……ヤメロオオ……！！」

振り上げられた剣。黒い羽と、赤い鮮血が舞い散る。

『アハハハハハ……！！殺してやる……！！貴様等をつ……皆消してやるうつ……！！』

「……そうは……いくものか……！」

『？！』

そこにいたのは、一人の老天使。そう、彼こそ……

『あら……？あなたは……、全てを見守る大天使？やっと……やっと、で
てきたのね……？』

体中を血に染めた少女の眼が、殺意に輝いた。

「まさか…こんな少女が…こんな、戦争を…」

異変は、ほんの二時間くらい前に起きた。大天使…オーデインの体に、恐怖が突き抜けた。

何か来る。何かが…

予感したときには遅かった。一瞬にして、城を護る役目を持つ黒天使の殆どが殺された。

一体、何に？

とにかく、その何かが起こった場所へ向かうことにした。

「?!」

しかし、もうすでに敵の配下に城を囲まれていた。

単体では弱い、数が多過ぎる。一体を倒している間に、後ろを捕られてしまう。ここでもたくさんの犠牲がでた。

傷ついた仲間を癒す白天使も、処置に間に合わなくなっていた。

二時間後…ようやく相手の所へ着いたと思えば、想像以上に屍が散らばっていた。

そんな恐ろしいことを…誰がしたかと思えば…

こんな小さな女の子が。

『私の…願い…天使を…お前等を…オマエヲ…皆殺してやるっ
…!!』

「待て…！何故だ…！何故そんなに天使を嫌う…?!だって…だっ
て、君も…！」

そう。少女の背中には、血に染まりながらも…ちゃんとあった。美
しい…銀白色の羽が。

ニヤツ、と妖しい笑みを浮かべ、少女は剣を振り上げた。

『我が名はクラリス…銀白色の天使……。大天使…お前を殺せば…
全て…!!』

「そうはさせないと言ったはずだ…！」

巻き起こる風。闘う二人。

あるはずのない姿。同じ、天使なのに――

傷つけ、傷つく。

そんなのは……

「いけない……!!」

『うつ!!』

終わらせたかった。それだけだった。それなのに…

また、傷つけた。

オーディンの剣が、クラリスの腹を突き抜けた。

『くっ……！』

黒い血が溢れる。重傷…。

『く、そっ…！』

そういつて、クラリスは空に消えた。

「……。」

終わった。普通ならほっとするはずなのに、どうしてだろう。

手の震えが止まらない。

プロローグ（後書き）

人間と同じ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6897h/>

HALFWAY

2010年12月4日04時53分発行